

## 共産主義者は社会民主主義者と名のらなければならない

一般的に言って、ロシアの共産主義者、マルクス主義の信奉者は、他のだれにもまして、**社会民主主義者**と名のらなければならない、その活動において、**民主主義**の巨大な重要性を、けっしてわすれてはならない。

ロシアでは、中世的・半農奴制的諸制度の残存物が（西ヨーロッパにくらべて）さらに無限に強大であり、ひどく圧迫的なくびきとなってプロレタリアートと人民一般をおしつけており、すべての身分と階級のなかで政治思想の成長を阻止している、あらゆる農奴制的諸制度にたいする、絶対主義、身分制、官僚制にたいする闘争が、労働者にとって巨大な重要性をもっていることを、つよく主張しないわけにはいかない。これらの諸制度がどれほどおそるべき反動的な力であるか、それらが労働にたいする資本の圧制をどんなにつよめているか、勤労者をどんなに屈辱的に圧迫しているか、また、資本をどんなにその中世的諸形態——それは、労働の搾取にかけては最新の工業的形態にひけをとらないうえに、この搾取に、さらに解放闘争のおそるべき困難をつけくわえている——のうちにひきとどめているか、ということ、きわめてくわしく労働者にしめすことが必要である。労働者は、反動のこういう柱石をうちたおさないかぎり、ブルジョアジーとの闘争を成功裡に遂行する可能性はまったくないことを、知らなければならない。なぜなら、労働者階級の勝利のためには、ロシアの農村プロレタリアートの支持が不可欠の条件であるが、この農村プロレタリアートは、こりいう反動の柱石が存在するあいだは、打ちのめされ、つかれきった人間の群——鈍い絶望にはしりうるだけで、理性的な、堅忍不拔の抗議や闘争をおこなうことのできない人間の群の状態から、けっして抜けだせないからである。だから、急進民主主義者と手をたずさえて、絶対主義や反動的諸身分および諸制度と闘争することは、労働者階級の直接の義務であって、社会民主主義者は、この義務を労働者階級に鼓吹し、しかも、それと同時に、これらいっさいの諸制度との闘争が必要なのは、ブルジョアジーにたいする闘争を容易にする手段としてにすぎないこと、また、一般民主主義的諸要求の実現が労働者にとって必要なのは、勤労者の主要な敵——その本性からいって純粹に民主主義的な一制度、すなわち**資本**——にたいする勝利にみちびく道をはききよめるためにすぎないことを、瞬時もおこたらずに労働者階級に鼓吹しなければならない。

そしてこの資本たるや、わがロシアでは、労働者をおさえつけるため、また労働運動の出現にもっときつくブレーキをかけるため、自分の民主主義を犠牲にして反動家と同盟をむすぼうとする傾向をとくに強くもっているのだ。

第一巻 「人民の友」とはなにか P307~308

### コメント

当時、ロシアの共産主義者にとっては民主主義的課題の解決が当面の綱領的課題であった。だから当時の政治状況全体の中で最も適切な名称として社会民主主義者と名のった。しかし同時にマルクス主義者である彼らは「これらいっさいの諸制度との闘争が必要なのは、ブルジョアジーにたいする闘争を容易にする手段としてにすぎないこと、また、一般民主主義的諸要求の実現が労働者にとって必要なのは、勤労者の主要な敵——その本性か

らいつて純粹に民主主義的な一制度、すなわち**資本**——にたいする勝利にみちびく道をはききよめるためにすぎないことを、瞬時もおこたらずに労働者階級に鼓吹しなければならない」ことをかたときも忘れず、資本主義の暴露とその廃絶の必要性をうまずたゆまず労働者に宣伝煽動した。